



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2020.8

No.437

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



江戸の鳥模様 浅見 徹(さいたま市)

1. 江戸の鳥類図鑑との出会い

昨年の年末講演会で、上田会長編纂の論文集『遺伝子から解き明かす 鳥の不思議な世界』1)を手に入れました。この本のことは全く知らなかったのですが、会長のサインがもらえるという特典に引かれての購入でした。

いざ手に取って読み始めると、難しい専門用語と細かな図表に圧倒され、なかなか先に進めません。何とか読み進んで、やっと第IV部「鳥の歴史と進化を探る」、第10章「古文書の『丹頂』からタンチョウを探る」(久井貴世)にたどり着きました。これが面白い。『歴史鳥類学』から解明する江戸時代のツルの歴史」という副題がつけられていて、その世界に引き込まれました。

詳細は原著を読んでもらうとして、私がこの論文に引かれた理由の一つが、掲載されている江戸時代の鳥の絵でした。そして、これらの絵の原典を見てみたいと思っていたちょうどその頃、支部幹事のSさんから江戸時代に描かれた鳥の図鑑に関する本『江戸の鳥類図譜』2)を紹介していただきました。さらに続けてもう1冊、『江戸鳥図鑑』3)も発行されたことを知りました。江戸時代の鳥図鑑がブームなのでしょうか。流行に敏感(ミーハー)な私は、早速2冊とも購入しました。

でも、もっと欲しかったのは、久井さんの論文に参考文献として記載された『江戸鳥類大図鑑 よみがえる江戸鳥学の精華「観文禽譜」』4)でした。しかし、この本は非常に高価で、手が出ません。コロナの非常事態宣言が解除されて図書館が再開するのを待って借り出そうと思ったら、非情にも「禁帯出」。仕方がないので、図書館でマスクをしてソーシャルディスタンスを保って閲覧することにしました。

2. 国立国会図書館デジタルコレクション

久井さんの論文では、引用している絵ごとに「国立国会図書館デジタルコレクションより」というコメントが付記されています。そ

こで、国立国会図書館(以下、国会図書館)のウェブサイトを見てみました。

すると、参考文献1)~4)で引用されている江戸の鳥類図譜の原典のほとんどが、デジタル画像で閲覧可能で、さらにダウンロード出来ることが分かりました。検索は簡単です。キーワードに原典の書名(一部でも可)を入れれば関連資料がずらりとリストアップされます。文献4)の原典である『観文禽譜』もありました。ところが、国会図書館にあるのは「本文」(解説書)のみで、これと対を成す「図譜部」は収蔵されていないことが分かりました。いろいろ調べた結果、東京国立博物館に図譜の内の何枚かが収蔵されていることが分かりました。

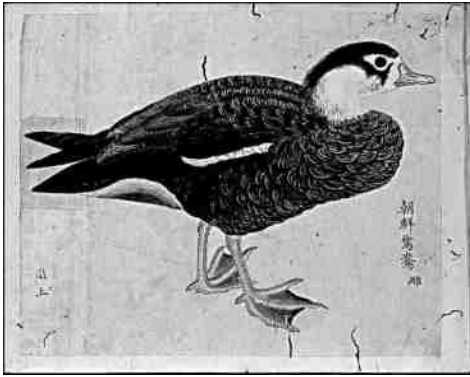
3. 東京国立博物館画像検索サイト

東京国立博物館の画像検索サイトで『観文禽譜』の「図譜部」の通称である『堀田禽譜』をキーワードに検索するといくつかの画像が出てきましたが、どうも数が少なすぎます。

そこで、『観文禽譜』の著者である「堀田正敦」で検索してみると、出るは出るは、膨大な画像がヒットしました。これらの絵は、描いている人が全ての鳥を実際に見ているわけではなく、過去に描かれた絵を貸し借りして模写して図譜に仕上げていたようです。鳥好きの大名や旗本の間にサロンのようなものが形成され、絵の出来栄え自慢、収録数自慢などがあったのかも知れません。堀田正敦は、幕府の中核で若年寄という要職を務めながら自ら「本文」を記し、諸家の写生を集めて本草画家などに模写させて注記を加え、400種類以上の鳥を収録した『観文禽譜』とその「図譜部」である『堀田禽譜』を編んだのです。

それではここで、数多くの絵の中から、特に気になったものをいくつかご紹介します。

なお、ここで紹介する画像はすべて東京国立博物館の画像検索サイトからダウンロードしたものです。



絶滅して、今ではもう見られない鳥、**カムムリツクシガモ**の♂(右上)と♀(左上)です。鳥の名前は「朝鮮鴛鴦」となっていて、どうやら朝鮮半島から人為的に渡来したものを写生したようです。さらに、雄の絵の右下に「高須侯藏図」との注釈があり、堀田正敦が高須侯から原図を借りて模写したのではないかと思います。その当時でも、カムムリツクシガモは珍鳥だったのでしょう。

次は、昨年伊豆沼に飛来して大騒ぎになった**アオガン**(左下)です。江戸時代には日本に飛来していたのでしょうか。それとも、南蛮船での渡来物を描いたのでしょうか。この絵に記された鳥の名前は、「夜光雁」、「あをかん」そして学名：*Anser ruficollis*もあります。アオガンは、現在はコクガン属(*Branta*)に分類されていますが、当時はマガン属(*Anser*)だったのでしょう。



最後に、**オカヨシガモ**雄(右下)の全身図と翼の詳細図です。現代の野鳥図鑑に比べても遜色のない素晴らしい絵です。実物をつぶさに観察して描いたのでしょう。



4. おわりに

ここで紹介したのはほんの一部に過ぎません。いくら眺めても飽きることがありません。絵と見比べながらの古文書の解読は、いろいろ想像が広がり、謎解きの楽しさもあります。皆さんも是非、つぎのURLから江戸の鳥模様を覗いてみてください。

- 国立国会図書館デジタルコレクション：
<https://dl.ndl.go.jp/>
- 東京国立博物館 画像検索：
<https://webarchives.tnm.jp/imgsearch/>
<写真> 4葉とも「東京国立博物館提供のデジタルコンテンツ」から
<参考文献>

- 1) 遺伝子から解き明かす鳥の不思議な世界, 上田恵介 編, 一色出版, 2019. 11
- 2) 江戸の鳥類図譜〜大名、学者、本草画家が描いた日本の鳥たち〜, 細川博昭, 秀和システム, 2020. 02
- 3) 美し、をかし、和名由来の江戸鳥図鑑, 田島一彦 企画・大橋弘一 監修, パイ インターナショナル, 2020. 03
- 4) 江戸鳥類大図鑑 よみがえる江戸鳥学の精華「観文禽譜」, 堀田正敦 著・鈴木道夫 編著, 平凡社, 2006. 03

緯度経度の確認方法(スマホで撮った写真)

日本野鳥の会埼玉 調査部

『しらこぼと』3月号で案内した「撮影地点の緯度経度の確認方法」では、スマホの機種によっては、緯度経度の桁数(小数点以下6桁)が足りない場合があります。ホームページを使用し、より簡単な方法で桁数が得られる方法がありましたので、案内致します。

URLは下記で、「EXIF GPS」のキーでグーグル検索した場合の最初の結果です。

<https://mgt.jp/t/exif> 「exif 情報(位置情報)表示」です。スマホの写真なら WINDOWS でも可能です。

🔧 exif情報(位置情報)表示

🔍 exif情報(位置情報)表示

exif情報(位置情報)表示

🔧 exif情報(位置情報)を取得中です。

exif情報

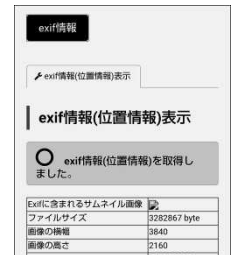
上の図の「ファイルを選択」をタップすると、下の様に、ファイル選択のアプリが表示(アプリ



名はスマホの機種により異なります)されるので、タップして、位置情報を取得する画像ファイルを選択して下さい。カメラアプリでも可能です。

カメラアプリを選択した場合、カメラが起動するので、位置情報を知りたい場所で、撮影、保存、「exif情報」のタップを行うと、位置情報を取得出来ます。

ファイルを選択した後に、青い「exif 情報」をタップすると、しばらく「exif 情報を取得中」が表示され、その後「exif 情報を取得しました。」が表示され、その下の一覧表の、下から5番目(緯度)、4番目(経度)で位置情報が取得できます。また表の下に地図が表示され、場所がっているか確認出来ます。



表

ISOスピードレート	100
ホワイトバランス	0
デジタルズーム	
撮影緯度(GPS情報がある場合のみ)	35.944722222222
撮影経度(GPS情報がある場合のみ)	139.71916666667
撮影方向基準(GPS情報がある場合のみ)	
撮影方向(GPS情報がある場合のみ)	
傾き	Horizontal(1)

地図



【新着情報】

Android アプリ「野外調査地図」でも現在の位置の緯度経度やメッシュを取得できます。詳細は <https://fieldstudymap.com/>で。



野鳥情報

さいたま市大宮区 大宮公園 ◇1月5日、オナガガモ14、キンクロハジロ13、ミコアイサ♀1、カイツブリ3、キジバト、カワウ2、ゴイサギ成鳥1、オオバン4、ユリカモメ1、オオタカ1、カワセミ1、コゲラ、ククイタダキ、シジュウカラ、ウグイス2、エナガ、メジロ（今季は多い）、ムクドリ、ツグミ、ハクセキレイ2、セグロセキレイ1、ビンズイ9（今季最大観察数）、シメなど。1月16日、カルガモ、オナガガモ、キンクロハジロ、キジバト、オオバン、カワセミ♂1、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ククイタダキ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ♂1、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ5、シメ。1月21日、カルガモ7、オナガガモ19、ホシハジロ♂2、キンクロハジロ8、ミコアイサ♀1、カイツブリ4、カワウ1、オオバン4、オオタカ、カワセミ♂1♀1、コゲラ、オナガ、ククイタダキ、シジュウカラ、ウグイス、エナガ多数、メジロ多数、ムクドリ21、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ5、セグロセキレイ1、ビンズイ7、カワラヒワ、シメ4+、アオジなど（森本國夫）。

吉川市南広島 ◇1月11日、田んぼでコクマルガラス30±、その中に淡色型13（下写真）、ミヤマガラス300+（鈴木 功）。



秩父市 美の山公園 ◇1月12日、ミヤマホオジロ♂2、カシラダカ、ホオジロ、ツグミなど（鈴木紀雄）。

久喜市 久喜菖蒲公園 ◇1月13日、カモ9種（オナガガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、ヨシガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、ミコアイサ）は健在だ。亜種ダイサギがここ数年続けて飛来。ジョウビタキは♀を多く感じる。セグロカモメが久しぶりに飛来。此处では珍しくカシラダカ、ホオジロ、アオジのホオジロ類3種が揃い踏み。他にカイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、アオサギ、コサギ、ゴイサギ、カワセミ、シジュウカラ、ウグイス、メジロ、コゲラ、カワラヒワなど。1月24日、カモ9種を確認。ヒドリガモ、マガモ、ヨシガモは例年並みだったが、ホシハジロ♂1、ミコアイサ♀1、キンクロハジロ♂1♀2と少なめ。他にアオジュリン2、シロハラ1、ハクセキレイ3、セグロセキレイ1、ツグミ、カワラヒワ、アオジ、メジロ、カワセミ、ダイサギ、コサギ、アオサギなど（長嶋宏之）。

さいたま市岩槻区 岩槻文化公園 ◇1月13日夕刻、元荒川でヒドリガモ30と50の2群。オオバン40、イカルチドリ1、オオタカ成鳥が西から東へ飛翔。カワセミ♂、オナガ10の群れ、カケス1。ツグミ、シロハラが水浴び。カシラダカ20が次々ヨシ原へ急降下で埒入り（鈴木紀雄）。◇2月5日、カケス、カルガモ、ヒドリガモ、ツグミ、アカゲラ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、アオジ、メジロ、イカルチドリ、カイツブリ、カワウ、エナガ、ホオジロ、コジュケイ、シロハラ、アカハラ、ウグイス、モズ、オオバン、シジュウカラ、ヒドリガモは150羽以上が集まってきている（内田克二）。

さいたま市見沼区 上山口新田付近 ◇1月14日、オカヨシガモ2、カルガモ8、コガモ14、カイツブリ3、キジバト、アオサギ2、バン2、オオバン（芝川のこの付近では最も数が多い種）、オオタカ（芝川の水面近くに止まっていた。水浴びするつもりだったのか?）、カワセミ2、モズ、シジュウカラ2+、ウグイス、メジロ8+、ムクドリ、シロハラ1（芝川土手の木に止まった）、ツ

グミ、ジョウビタキ♀1、スズメ、ハクセキレイ2+、カワラヒワ10+、シメ3+、ホオジロ6、アオジなど。1月22日、オカヨシガモ♂5♀1、ヨシガモ♂3♀2、カルガモ10、コガモ12、カイツブリ3、キジバト、ゴイサギ成鳥1(落鳥)、アオサギ2(求愛行動をしていた)、バン2、オオバン多数、タシギ1、カワセミ2、チョウゲンボウ♀1(水田の中に置かれたせん定枝の上に止まっていた)、モズ2、ハシボソガラス10+の群れ、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ50+、メジロ、ムクドリ、アカハラ1(芝川岸の木に止まった)、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ5、セグロセキレイ1、カワラヒワ80(30と50の群れ)、シメ、ホオジロ3、アオジ2(森本國夫)。

さいたま市桜区 田島団地 ◇1月16日、団地東側の農家の庭先にジョウビタキ♂1(陶山和義)。

さいたま市大宮区 大宮第三公園 ◇1月17日、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、コガモ、キジバト、コゲラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ツグミ、ニシオジロビタキ(下写真)、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、シメなど。1月19日、カルガモ、コガモ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、オオバン、コゲラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ツグミ、ニシオジロビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、シメ、オオジュリンなど(嶋田富夫)。



さいたま市南区 彩湖 ◇1月17日、彩湖北端で水位が低く波一つない湖面にキンクロハジロ約180、ホシハジロ約120。目視のため遠方のカモの識別ができなかったが、総数400羽以上。黒豆を散らしたようなカモ

の群れに出会った。双眼鏡が欲しかった。冷たさを感じる岸边でツグミが1羽水浴び。セグロカモメカウミネコの2羽が飛来し着水。オオバン5も近くまで寄ってくれた。うれしい。他にヒヨドリ、ムクドリ、トビ、カワウなど(陶山和義)。

(編集部註：彩湖の大部分は戸田市ですが、北端部はさいたま市南区です。)

羽生市 羽生水郷公園 ◇1月17日、アリスイが地面を歩いていた。ベニマシコ♀が可愛かった。オオタカが輪を描いて上昇。ノスリが3回も飛んだ。他にオオジュリン、シメ、ジョウビタキ、アオジ、ホオジロ、カシラダカ、ツグミ、カワラヒワ、ハクセキレイ、モズ、ウグイス、コゲラ、ヤマガラ、シロハラ、バン、オオバン、アオサギ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ヨシガモ、ミコアイサなど(長嶋宏之)。

桶川市 荒川太郎右衛門自然再生地 ◇1月18日午前11時20分、荒川太郎右衛門自然再生地の「見どころ発見!ツアー」にて。初雪が降る寒い中、タゲリが40数羽の群れと35羽の群れとで、セスナ機を背景に乱舞していた。久しぶり(30年前桶川の江川流域の田んぼで冬の間沢山見たことを思い出した)のタゲリの群れに興奮した(立岩恒久、秋葉芳男)。

吉見町 八丁湖公園 ◇1月19日、リュウキュウサンショウクイを確認した(神戸宇孝)。

川越市 伊佐沼 ◇1月19日、沼南側の鉄塔上にハヤブサ成鳥1。セイタカシギ1、オオハシシギ2、カワセミ、ユリカモメ、セグロカモメ、コガモ、カルガモ、ハシビロガモ、ヒドリガモ、カワウ、モズなど(藤原寛治)。

蓮田市 西城沼公園周辺 ◇1月20日、ヒヨドリ2が水辺の護岸から、足が付かない程に深い水に飛び込んで飛び上がっていた。こういう水浴びもするんだ!農家の庭にいたシロハラがブロック塀に飛び上がり、柿の木に飛び移って、柿のヘタを啄んだ。他にオナガ5、メジロ5、シメ1、カケス3、コゲラ2、ウグイス地鳴き3、ジョウビタキ♀2、ハクセキレイ1など。1月27

日、オオタカ1羽が屋敷林から飛び立ち、頭上を飛んで住宅街上空に飛び去った。他にヒヨドリ35、ムクドリ10、シメ1、オナガ3、メジロ10、コゲラ1、シジュウカラ4、コサギ1、カルガモ7など(長嶋宏之)。

さいたま市見沼区藤子 ◇1月24日、灌木に白っぽい小鳥、車内からフロントガラス越しに双眼鏡で見ると灰色の頭、黒い過眼線、白い下面のモズ…え!!オオモズ!?!いや、高原モズ? よく見ようと思ったら飛び去って、見失った。1月26日、屋敷林の樹冠にコチョウゲンボウ♀1。やがて高速で飛び去る。ヨシ原のカシラダカ、ホオジロの小群内にホオアカ1。ミヤマガラス50の群れ、ノスリ2。2月14日、濃い霧の中、上空からヒバリの囀り。ホオジロも囀っていた。2月29日、小木にとまる白っぽい鳥、オオモズだ! やっぱり居た…と思ったら、長めの尾、飛んだ時、初列と次列風切に白帯がありオオカラモズと判明。ビックリ!(鈴木紀雄)。

草加市柿木町 中川河川敷 ◇1月25日、カンムリカイツブリ1、ベニマシコ♂1(鈴木 功)。

草加市柿木町 そうか公園 ◇1月25日、ルリビタキ♀型1(鈴木 功)。

上尾市地頭方~平方領領家 ◇1月26日、スズメ、メジロ、シジュウカラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、キセキレイ2、ヒヨドリ、オナガ、モズ、カワラヒワ、エナガ、コゲラ、アカゲラ、コサギ、ダイサギ、アオサギ、ツグミ、アオジ、ホオジロ、カワセミ、クサシギ2、キジ。電柱にいた鳥が2羽、ヨシ原に急降下すると沢山のムクドリが慌てて飛び出した。様子を見ているとムクドリをくわえたチョウゲンボウ1羽、もう1羽は失敗したようだ(村越百合子)。

さいたま市岩槻区本丸4丁目付近 ◇1月30日午前7時過ぎ、元荒川上空をハクチョウ2羽が啼きながら東方面に飛び去る。今年もイソヒヨドリが昨年と同じ畑に戻ってきた。近くの調整池にはカモ70、イカルチドリ14が休んでいる(内田克二)。

さいたま市西区西大宮2丁目 ◇2月1日、

埼玉栄中学部・高等部建物の近くの調整池でカワセミ、カルガモ、コサギ、ダイサギ、カワウ、カイツブリ成鳥と若鳥、クイナ、コガモ、ヒドリガモ、タヒバリ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、アオジ、スズメ、ハシトガラス、ヒメアマツバメ(村越百合子)。

吉見町 八丁湖 ◇2月3日、マガモ、カルガモ、ホシハジロ。オンドリ(なぜかのみで早が見当たりません)、沼に浮かんだ木上で熟睡中。カンムリカイツブリ、カイツブリ、メジロ、シジュウカラ、アオジ、ヒヨドリなど(阿部義裕)。

蓮田市笹山 ◇2月3日、刈り残された稲田の中にホオアカ1。他にオオジュリンも数羽潜んでいた(鈴木紀雄)。

蓮田市黒浜 ◇2月3日、上沼でカワセミ♂が2回ホバリングから水面突入。2回目に小魚をゲット。水面にはバン、オオバン、カイツブリ、コガモ。オナガ約20が次々に飛んで行った。アカゲラ♀1が出現。3羽ほどのベニマシコの声。♀タイプだけ確認できた。真上を向いてはおじぎをする行動を繰り返す。求愛行動の練習?(鈴木紀雄)。

川島町大字出丸中郷(53397442) ◇2月4日、田んぼでキジバト、ダイサギ、ケリ、ハシトガラス、ムクドリ、スズメ(嶋田富夫)。

加須市 加須はなさき公園 ◇2月6日、ヤマガラがエゴの実のヘタをつついていた。腹部が黄緑色したシジュウカラがいた。他にカシラダカ1、シメ2、ツグミ3、モズ1、メジロ4+、マガモ2、ヒドリガモ70±、ヒドリガモ&アメリカヒドリ交雑種2羽など(長嶋宏之)。

さいたま市緑区高畑 ◇2月7日、小さな水路にタシギ1。今冬はタシギが少ない。2月10日、同所でイソシギ1(鈴木紀雄)。

表紙の写真

スズメ目アトリ科カワラヒワ属カワラヒワ

昨年8月の田んぼで、盛りを過ぎたヒマワリの花に飛んで来たカワラヒワの幼鳥。顔は爺さんぼいが、羽の黄色は鮮やか。

チャリバーダー47(さいたま市)



今月も探鳥会は中止ですが・・・ 9月からの再開に向けて模索中です 普及部

とうとう、8月も全ての探鳥会が中止となりました（7月号8ページの行事案内参照）。2月末から半年以上の中止が続いています。新型コロナウイルスの感染拡大が止まるのは、何時のことでしょう。でも、感染が完全になくなることはないでしょう。このような状況認識の下、何とか探鳥会ができないものかと、普及部では色々模索しています。有効な感染防止策は、万一感染者が出た場合の対応は、



等々。考えていると次々と不安が頭をもたげ、煮詰まってしまう。そこで、課題抽出と対策検討のための試験的な探鳥会（模擬探鳥会）を幹事有志でやってみました。

この結果を反映させて、状況が許せば9月から探鳥会を再開したいと準備を進めています。ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

緊急事態宣言の全面解除後、東京、埼玉では感染者が増加し、第2波の到来を心配する声もあります。一方、この増加は今までとは違い、積極的な検査の実施によるもので心配ないという話もあります。なにが真実かは、後になって初めてわかることでしょう。

このような状況で、8月号恒例のむこう4ヶ月の予定表も掲載できません。しばらくの間は、1ヶ月ごとに検討して行事案内を作成・掲載することとしました。ご了解ください。

9月号に行事案内が掲載できますように。

この鳥、なんだ？

榎本秀和（鴻巣市）

バードウォッチングというのは楽しいものだ。人によってその楽しみ方はいろいろあると思うが、野鳥を見て、その種名を言い当てるという行為に興味と興奮を覚える人もいるだろう。少なくとも私はそうである。

日頃の野外でのバードウォッチングの場合、普通は、双眼鏡とかフィールドスコープを用いて、距離を置いた位置にいる野鳥を観察する。そしてまあ、たいていは、その鳥が何か見当がつく。

しかしである。野鳥をきわめて至近距離で見たとき、あるいは手に取ったことができたとき、私は、それがなんとという鳥だかわから

なくなってしまうことがある。

バンディング（標識調査）の現場に居合わせ、バンダー（標識調査員）の人から「この鳥は〇〇ですよ」と教えられたときもそうだった。まったく妙な話なのだが、あまりに野鳥を間近にすると、日常見えない部分まで見えすぎて、普段の感覚が崩れ混乱してしまうのかもしれない。

「保護しました。なんでしょう？」と、段ボール箱に入ったカモを見せられたときも、情けないくらいうろたえてしまった。種名が出てこないのだ。5メートルぐらい離れて双眼鏡で見ればわかるかな、などと真顔で考えながら、落ち着いてよくよく見たらホシハジロの♀。どうしてすぐにわからなかったのだろう。自分自身に対して深いため息をつかずにはいられなかった。



行事報告

1月18日(土) さいたま市 大宮市民の森

参加：17(会員17)名 天気：曇後雪

カルガモ キジバト コゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ メジロ ムクドリ ツグミ ハクセキレイ カワラヒワ アオジ (14種) (番外：ドバト) 今回の探鳥会は通常と違い定点観察を行う予定であったが、開始早々雪が降り始めた。風も強くなり気温も急降下。探鳥会は早々に切り上げるしかなかった。初めての定点観察会なのに残念であった。次回に期待！ (青木正俊)

1月19日(日) さいたま市 三室地区

参加：46(会員40)名 天気：晴

キジ マガモ カルガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ バン オオバン カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ タヒバリ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (31種) (番外：ドバト) 鳥がいる場所を、みんなに教えることは実に難しい。「どこ？どこ？」と言われても「あそこの木！」などとしか言えず、見たい方も見せたい方もイライラが募った経験は誰でもあるはず。しかし今日のチョウゲンボウは、ほんとうに“良い子”だった。新装相成った「さいたま市立病院」。その壁面に貼られた病院名の「い」の字に、かなり長い間とまってくれたのだ。説明する方も、見るほうも楽なこと、この上ない。探鳥会に登場する鳥はすべからく、こうであってほしい。 (小林みどり)

1月22日(水) 羽生市 羽生水郷公園

参加：34(会員32)名 天気：曇

ヨシガモ ヒドリガモ マガモ カルガモ コガモ ミコアイサ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ ヒクイナ バン オオバン オオタカ ノスリ カワセミ コゲラ モズ ハ

シボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ アカハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (40種) (番外：ドバト) 湿地の林、池、ヨシ原と冬鳥観察に適した環境。芝ではセグロセキレイとハクセキレイに混じり、アカハラとツグミ。上空をオオタカが舞い、枯れ木に止まるベニマシコの群れを見ていたら、ここでは初記録のヒクイナが水路を横切り皆さん大騒ぎ。終わってみれば40種が観察できた。 (相原修一)

1月25日(土) 蓮田市 黒浜沼

参加：50(会員39)名 天気：晴

キジ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ クイナ オオバン オオタカ カワセミ コゲラ アカゲラ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ ツグミ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (31種) (番外：ドバト) スタートしてすぐに、ヨシの上でアオジ、シジュウカラが出迎えてくれた。沼にいつもいるマガモ、カルガモがこの日はいない。しかし、その隣の田んぼで、シメが10数羽で採餌していて、皆でじっくりと観察できた。中盤でアカゲラ (♂) を発見、初見の参加者も感激。最終コースでカワセミを見て、キジの観察で終了。 (千葉秀男)

1月26日(日) 長瀬町 宝登山

参加：30(会員25)名

コジュケイ キジバト アオサギ トビ ノスリ コゲラ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス ヒガラ シジュウカラ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ムクドリ アカハラ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ (27種) (番外：ガビチョウ) 天気予報は曇りのち晴れで、風がなく冷え込みも弱く探鳥会日和。宝登山ロープウェイ駐車場でカシラダカ38羽、上空で旋回するトビを見ていると数が増えだして9羽に。山頂に着く頃には晴れ間も広がり、ロウバイが見事に咲いていた。 (井上幹男)



● 6月号と7月号を同封発送しました

『野鳥』誌と同封発送する皆さんには、野鳥の会本部からほぼいつも通りに発送されたこと、埼玉事務局から『しらこぼと』のみを発送する皆さんには、6月25日ころに本部から郵送されてくる宛名ラベルにより、6月末ごろに、6月号と7月号を同封してお送りすることになりそうだというのを、7月号本欄に記載してその発送を待つことになりました。

当会の公式サイトではそのことをお知らせしましたが、ネット環境にない会員の皆様にお伝えする手段がなく、気をもむ日々が続きました。

事務局に FAX、電話、メールによるお問い合わせを数名の方からいただきましたが、多くの皆様には、6月26日に届いた宛名ラベルにより、その日の内に発送した6・7月号同封発送分が届くまで、お伝え出来ませんでした。まことに申し訳ありません。

● 8月号も 10 ページです

今月号もいつもより 2 ページ少ない 10 ページです。

● 7月1日現在の会員数は

1,520 人です。

活動と予定

● 6月の活動

しらこぼと 2020 年8月号(第 437 号) 定価 200 円 (会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 日本野鳥の会埼玉代表 山部直喜 (〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目 26

番 8 号 プリムローズ岸町 107 号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460

郵便振替 00190-3-121130 URL <http://www.wbsj-saitama.org> 事務局 office@wbsj-saitama.org

編集部への原稿 yamabezuku@wbsj-saitama.org 編集部への野鳥情報 toridayori@wbsj-saitama.org

住所変更などの連絡は gyomu@wbsj.org または TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635

〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番 23 号 丸和ビル (公財)日本野鳥の会会員室へ

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。印刷 関東図書株式会社

6月11日(土)～14日(日)、メール交換による『しらこぼと』7月号校正作業(相原修一、海老原美夫、長嶋宏之、山部直喜)。

6月19日(金)、『しらこぼと』7月号埼玉事務局発送分納品。

6月25日(木)～27日(土)、メール交換による役員会を開催。「第1号議題 9月6日(日)開催予定であった令和2年度リーダー研修会は中止とする。」「第2号議題 例年6月の役員会で決定する9～12月行事予定は策定せずに、当面の間、1ヵ月単位で行事予定を策定していく。」「第3号議案本年秋のシギチドリ調査は一般公開せず、調査部員のみで実施することを承認する」との議案を承認した。

6月26日(金)、『しらこぼと』6・7月号同封発送分を郵便局から発送(海老原美夫、山部直喜)。

● 8月の予定

本稿執筆時7月初めの段階では、通常本欄でお知らせしている編集部会、校正作業、袋詰め会、役員会などを、事務局に集まって実施する目途が立っていません。

編集後記

近所の柳瀬川には例年春に無数のアユが遡上してきて釣り人を楽しませている。しかし今年は極端に少ない。他の小魚も同様少ない。テレビで多摩川のアユも今年は激減というのを見た。昨年の産卵後の台風19号が原因ではないかということだった。一方で何故か今年は大型のボラの群れが見られる。(山口)